

んです。ということでは私は失敗もあり、過ちもあり、それはそれで済ませて、そしてまた次に挑戦するということをしてきたんです。それが会社が一部上場に応えられる規模にまで至った元だと思っですね。もしか私が一身の損得、安全だけを願ってれば、それはちょっと無理だったですよ。要するに、誰でも自分の得を全部捨てることはできないですね。どれだけそれが後回しになって、公が優先するか、その比率ですよ。五分五分なのか、公が六で私が四なのか。公が七で私が三なのか。私は幸いなことに、家内もものに固執することはなかったもので、そういうことに囚われないで済んだということですね。公であるということは、会社であり、会社を通して社会をどうしていくかということですね。例えば、会社でも人を幸せにしながら成長する企業と人を不幸せにしながら膨張する企業とあるんですね。今、見ると残念ながら人を不幸せにしながら膨張する企業の方が多くなった。これではダメで、やはり大小は別として「人を幸せにしながら成長していく」、そっちを取っていただきたいですね。

### 人と関わるとは

自分の会社の社員だけ幸せになる、ということはないんです。人間は一人幸せになるということはないんですよ。周囲が幸せの中にいて幸せなんです。例えば、家族の中で、昔は一家の主人だけが馳走食べて、酒飲んでたという家もよくあったということですね。家族はたくあん、味噌汁で食事をしているというのに、そういうのありましたね。それは幸せじゃないですよ。それと同じです。

### イエローハットの社会貢献

よく人が、「あなたは余裕があったからできたんでしょ」と言いますね。それはまったく当たらないですね。余裕がない中でやってきたから余裕ができてきたわけですね。もしか、それどころじゃない。私が社業だけ、うちの会社のことだけをやってきたら、ずっと今でもそうだと思いますね。本当に余裕がなかった中で、自分の時間を割き、費用も割いてきたから、逆に余裕ができてきたと言えますね。

### 余裕がない中で、公を優先できる理由は？

まちがいなく、「余裕」というものは自然にできるものではないんです。忙しい中であっても、僅かな時間でも割く、僅かな費用でも割くということから始めると、やがてそれがだんだん余裕という部分になってくるわけですけど、それを「そんな暇はない」とか「そんな余裕はないから」と言って、いつまでも「私」部分だけをやっていたら、ずっと「私」部分で終わってしまうんです。そう思いますね。

### 『第19回便教会総会』のお知らせ

8月24日 実践報告(愛知県豊田市で)  
8月25日 掃除実習(愛知県みよし市で)  
実践報告者は新居浜市立泉川中学校の越智誠司先生です。14号で綴った越智先生の実践は大きな反響を呼びました。越智先生の実践を支えたものは何か? 経営者にもマストの研修会です。「これぞ便教会パワー、掃除の力」です。

高野修滋 拝

# 便教会新聞

第 142 号

平成31年2月

## 本質

便教会は、教師の教師のためのトイレ掃除に学ぶ会です。「方法論や技術や手法ではない、ただ身を低くして実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高めることを目的としています。

便教会新聞発行責任者 高野修滋  
〒445-1080  
愛知県西尾市米津町天竺桂二七七  
〒176-0563 一五六三ー一四三二七  
携帯 090-4215-1727

### 『本質に目を向けさせてくれる

#### トイレ掃除』

(山口県) 柳井市立大畠中学校  
校長 三好 祐司

平成30年の暮れも押し迫った12月21日、山口県光市の自宅を出発し、JRと高速バスを乗り継ぎ、愛媛県新居浜市へと向かいました。目的は翌22日に開催される愛媛便教会に参加することです。この会に参加するきっかけになったのは高野修滋先生からお誘いを受けたことですが、実は高野先生とは一度もお会いしたことはなかったのです。

参加を承諾したのはいいのですが、隣県とは言え、縁もゆかりもない新居浜市。誰が参加しているのかも全く知らない状況での参加です。「まあ、とりあえず前夜祭に出て、知り合いになってから、便器を磨こう」という軽い気持ちで新居浜に向かいました。そして、前夜祭の会場に行ったら、何と知り合いがたくさんいるではないですか。下関掃除に学ぶ会のメンバーの広瀬さんご夫婦や一昨年の山口鍵山教師塾で一緒に先生などです。そして、翌日の掃除会場である泉川中学校では高松の國方さんに久しぶりのお会いするなど、それまでの孤独感はいっぺんに吹き飛び、

前夜祭と掃除実習で知り合った多くの方たちとは何年も前から知り合いだったような不思議な感覚でした。この感覚は、11月に参加した中国ブロック指導者研修会での掃除実習でも感じたものであり、掃除の会に参加されるすべての方々が、心の底で通じ合っているという言葉では言い表すのができない不思議な感覚です。

さて、今回の泉川中学校での掃除実習のことです。私の班の掃除前のミーティングのとき、いかにもいやいや参加したという顔つきの生徒さんがおられました。中学校で開催の時はよくある光景で、部活顧問の先生の強制による参加ということだなと思っただ次第です。しかし、案の定、2時間の掃除実習の間に、この生徒さんの取り組みの様子は大きく変わり、始める前と終わった後ではその目の輝きは全く違ったものとなっていました。「恐るべし掃除の力」という思いが私の頭をよぎりました。そして、一参加者として1泊2日の新居浜での便教会を終えて、再び自宅に向かう道中、私の心の中には大いなる満足感と、自分の学校の取り組みの甘さを気づかせていただいたという感謝の気持ちがありました。

ここで、私の勤務している大畠中学校についてお話をしたいと思います。今は校長ですが、教諭時代にも勤務していた学校です。平成19年

【編集後記】一月十九日、第62回西尾を美しくする会を西尾市歴史公園で行いました。終了後、公園内の茶室で、会の顧問、榎原康三さんからお抹茶をご馳走になりました。康三さんは様々なことに精通し、知恵があり、いつもニコニコされて穏やかで、人との時間をとても大切にされました。掃除から四日後、心不全で帰らぬ人となりました。82歳でした。突然空いた大きな穴、いろいろなことが思い出され、涙が溢れ、唯々『ありがとうございました』の感謝に尽きます。「もっと頼りたかった」というのが本音ですが、甘えを戒め、志に向かって一歩ずつ実践を積み重ねていきます。日本を美しくする会、掃除に学ぶ会の先覚者の方が一線を退かれる中、掃除を受けた恩、感動に感謝し、22年間のトイレ掃除に学ぶキャリアを活かし、「掃除の魅力、素晴らしさ」を次世代に繋げていかなければならないと責任を感じています。私は「便教会」を立ちあげるとき、「便教会」を組織にはしないと決めました。一人ひとりの心に点した灯りが「便教会の魂」で、生徒や同僚に働きかけ、コツコツと実践を重ねていく、それが「便教会」です。そうすれば良きご縁と繋がります。教師生活の半分以上は生徒と共にトイレ掃除に励みました。反対、誹謗中傷されたこともありましたが、便教会の灯火を消すことなく、縁ある生徒を耕し、種を蒔き、働きかけました。いつか、どこかで、きっと掃除の芽を出してくれるだろうと信じています。『信は身も心も柔らかにする』

の4月にそれまで東京で保守系の教職員団体である全日本教職員連盟の役員を任せ、山口県に帰ってきた時に着任したのが柳井市立大畠中学校でした。当時の大畠中学校は全校生徒が80名の小規模校ではありましたが、漁師町という場所柄か、生徒指導面で困難な学校でした。掃除への取り組みもいよいよ加減なものでした。ただ、生徒の心は決してねじれている訳ではなく、何が正しく何が良いものであるかをきちんと教えてもらっていないということだと、そう感じていました。ここから何とかしなくてはという思いが猛烈に湧き上がっていき、岩国掃除に学ぶ会に入れてもらい、掃除による改革を始めました。

実は、東京にいたときに、小野晋也さんという国会議員の紹介で鍵山相談役と行き合うことができました。山口県に帰ってから、掃除を辞めるのはもったいないと思っていたところ、岩国掃除に学ぶ会に入れていただき、ここから学校での実践開始です。岩国掃除に学ぶ会の佐古利南代表には、強力に応援をしていただき、何度も大畠中学校では全校生徒による掃除実習をしました。また、鍵山相談役にもおいでいただき、講演会をしていただきました。私の方は、学校内の掃除用具にすべて紐を通して吊るすようにし、掃除用具を大切にして掃除に取り組むようにし

